

広島発・産学官医連携体制による高齢者見守り支援システムの研究開発

(広島市立大学 谷口和弘, 研究開発期間: 平成 25 年度～平成 26 年度)

【研究開発の目的】企業や病院, 大学, そして地方自治体等が連携し, 生活リズム及び生体データを測定する製品を開発し, 製品を使用することにより得られる情報を, 家族や見守り者, 高齢者本人, 医療機関が活用し, 高齢者の見守りや健康管理に必要な情報伝達等を行うシステムを開発するとともに, 製品等の開発を通じ, 高度なものづくり技術を有する自動車関連企業や, ICT系企業の医療・福祉関連分野への参入を促進する. また, 開発したシステムを活用した高齢者の見守りサービスの提供の仕組みをつくる.

【研究開発の概要】高齢者が健康で, その能力を発揮し, 生きがいを感じ, 安心して暮らせる健康長寿社会を実現するための医用ビッグデータを用いた高齢者見守りシステムの研究開発を行う. 具体的には, 耳に装着するワイヤレス外耳デバイスに生活情報・医療健康情報を検知するセンサを内蔵しており, これらの情報をスマートフォンを経由して医療情報データベースに送信・蓄積し, 高齢者の健康状態を常時看視するシステムを構築する. 平成 28 年度に製品化を行う.

【期待される研究成果及びその社会的意義】自らの発信動作等を要せずに緊急事態に対応することに加えて, 日常の生活リズム等の変化をとらえて, 緊急事態になる前の予防的な見守りシステムを研究開発することで, 地域高齢者の生活の質の向上, 地域社会・経済活動の活性化に寄与することができる.

